

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の特徴	郊外の田園に立地しているため、自然豊かであり、季節感を感じることができます。当法人の福祉理念「あなたらしさいつまでも」を念頭に利用者の過去の生活歴や嗜好などのアセスメントを活かした活動提供、及び、自立支援に力を入れています。 併設の認知症対応デイサービスとグループホーム合同で、外出行事・趣味の会活動を通して交流しており、ニーズに合わせて、「デイサービス→小規模多機能→グループホーム」と移行がしやすい環境です。また、地域とのつながりにおいては、畑作業を一緒に行い、地域行事、奉仕活動に参加し、地域住民が気軽に声を掛けていただけるよう、馴染みの関係作りを目指しています。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 岡保きらめきハウス	管理者	小山 祐司		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	7人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>プランの内容を確認し見直しを行うことが必要。担当スタッフがモニタリングを行うことで定期的なカンファレンスに活かせることを考える。また、在宅での問題、課題に対し、アセスメントを強化し行っていく必要がある。</li> </ul>	<p>(取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネと各担当スタッフが担当者会議に出席した。ミーティングでケア内容を共有し、統一した関わりを持つ。</li> </ul> <p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当者会議にのべ15回同行し、本人だけでなく家族の想いを知ることが出来、ケアに活かすことができた。カンファレンスでは活発な意見が出た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の気持ちや困りごとを直接聞くことができ、積極的に取り組んでいきたいといった前向きな姿勢のスタッフが増えた。また、在宅での生活環境をしっかりと把握することで、課題、問題が明確となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内でのケアが中心ではなく、在宅での問題、課題に対してアセスメントを行い、全スタッフが、在宅生活が継続できるよう話し合い、実践につなげていく。</li> </ul>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が収束した後、すぐに地域交流スペースを日常的に立ち寄れる場所、誰もが気軽に楽しむことができる場所になるよう、継続して環境を整えていく。</li> </ul>	<p>(取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>換気、消毒を実施、アクリル板を設置し、座席を2m離すなど感染対策を行う。送迎時に体温計測し、同居家族の体調の聞き取りを行う。職員の体調管理、手指消毒の徹底を行う。</li> </ul> <p>(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の方との関わりが積極的に出来なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メンバーさんにマスクをつけてもらう事が難しく、繰り返し必要性を説明し、貼り紙など掲示し工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染対策の継続を行いながら、利用者の楽しみや生きがいを持てるような環境作りを行っていく。</li> </ul>

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種が終わるまでは感染リスクを鑑み、人が多く集まる場所への参加は今後も控えていく。</p>	<p>(取組み)          ・施設の畑で、感染対策をしながら地域の方々々と野菜の栽培を行った。          (結果)          新型コロナウイルス感染症が、一旦落ち着いた時期に地域の方々々と畑での秋の収穫、神社での落ち葉拾い(社会奉仕)を実施することが出来た。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症のため、活動を自粛せざるを得ない事が多かった。しかし、施設の畑活動、奉仕活動は感染予防を行いながら継続出来た。          ・3密を避けるため、人数を制限したため、活発な活動はできなかった。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策をしながら地域活動に参加していく。畑仕事や神社での奉仕活動を継続し地域との顔見知りの関係性が継続して築くことができるよう機会を持つ。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み</p>	<p>・出向けない人のためにもこれからもオンラインでも出来る事を増やしていく。          ・一部だが地域行事が4月より再開予定となる。活動再開に向けて本人様の暮らしを支えていく。          ・認知症サポーター養成講座を積極的に行い「やさしいまちづくり」となるよう取り組んでいく。</p>	<p>(取組み)          ・一人暮らしの方の隣人、知人、民生委員、なじみの店などへの協力依頼を行い、緊急時の連携をはかる          (結果)          ・日中家族が不在である利用者が日常利用されている飲食店と緊急時の連携を構築した。また、買い物支援を行う。在宅生活の維持や一人暮らしのサポートができた。</p>	<p>・買い物支援では、普段行けないからありがたいとの声もあった。          ・馴染みの店からは、連絡先が明確になり困った時は連絡できてよかったとの声を頂いた。</p>	<p>・近所の人との繋がりや、馴染みの店との繋がりをサポートしていく。在宅生活を続けるために、社会資源を活用して支援ができるようサポートしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>・運営推進会議において、介護についての知識等を聞き取りし、地域の方に参加をつのる。</p>	<p>(取組み)          ・運営推進会議開催(奇数月)          (結果)          ・新型コロナウイルス感染症予防のため、運営推進会議の開催数が減り、書面での確認の場合があり、活発な情報交換等が行えなかった。</p>	<p>・地域との交流がほとんどなく、地域としても外部評価をしにくいという意見があった。</p>	<p>・運営推進会議を通して、地域の方の意見を聞き、小規模の活動に反映していく。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>・防災・災害対策を共有し、いざという時に実践できるように、取り組んでいく。</p>	<p>(取組み)          ・2回/年の防災訓練の実施。地域の方との連携の確認          (結果)          ・感染症対策の為、地域の方との合同の避難訓練は実施されなかった。消防訓練では全員が参加し、避難誘導方法、手順を再度確認し、安全に非難することが出来た。地域の防災会議に出席し岡保地区での避難の手順を確認した。</p>	<p>・避難通路には防犯用の砂利がある為、車椅子の場合、どう避難していくのか検討。ダンボールを敷く、二人で抱えていくという意見があった。フェンスの鍵が開けるのに時間がかかった為、より早く安全に避難できるようルートの変更を検討していく必要がある。</p>	<p>・どんな状況でも安全に避難できるよう避難経路、方法の確立を行う。災害マップを再度確認し、避難ルートの確認を行い地域の方と連携を図っていく。</p>